

環境だより



環境課 ☎66・1122

浄化槽に、新聞紙、ゴム製品、生活用品などの異物を流すと、流入パイプが詰まったり、浄化槽内のばっ気装置などにからまるなど、浄化槽の故障の原因になります。

浄化槽が故障すると悪臭を放つようになり、周辺に迷惑をかけます。また、海や川を汚す原因にもなります。

浄化槽は、定期的に専門業者に保守点検、清掃、水質検査を依頼し、ていねいに使うことが大切です。

保守点検

浄化槽本体、付属部品の点検や、消毒剤の補充、汚泥が溜まっている時は、清掃の時期を判断します。

浄化槽は正しく使って

清掃

浄化槽の機能を維持するために、槽内の汚泥、汚物、異物、その他機能上支障となるものを取り除き、各装置の掃除を行います。

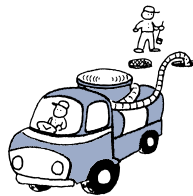
水質検査

浄化槽が正しく使われ、きれいな水に処理されているかを検査します。浄化槽の使用開始から6〜8カ月の間に行う検査と、毎年1回行う検査があります。この検査は、(財)中部微生物研究所(☎76・2228)が行います。

保守点検、清掃などで、どの業者に委託したらよいかわからない時は、環境課にお尋ねください。



保守点検でリフレッシュ



清掃も忘れずに

消防最前線

Journal of Fire Department 119

URL <http://www.city.gamagori.aichi.jp/syoubou/index.html>

皆さんのなかには、消防士は出動の時、棒をすべり降りる〴〵と思っている方がいらっしゃるかもしれません。

ここでの棒とは、消防士が出動する時に使用する「すべり棒」のことですが、蒲郡の消防署には、今も昔もすべり棒はありません。

出動指令が出されると、2階の仮眠室から階段で駆け下りてくるか、1階の待機室から直接消防車、救急車に乗り込みます。あの棒を、仮眠からおきたばかりの寝ぼけまなこで、大人数が一度に降りたらどうなるでしょう。多分、ケガ人続出で、出動どころではありません。

皆さんのなかには、消防士

すべり棒

は身軽に棒をすーっとすべりおり、素早く防火衣を身につけ、消防車でさっそうと出動、そんな姿を想像しているかもしれないません。現在、全国の消防署ですべり棒を使っているところは、ほとんどありません。以前に使っていた消防署も、今は見学用に残っている程度の方です。

新人が入って来る消防署員のなかにも、すべり棒を使うものだと思いついて入っている人がいます。ところが、署にすべり棒は見当たらず、階段を使うという当たり前の出動光景に出会って驚きます。しかし、階段を使って迅速に出動している先輩を見て納得。実は、すべり棒よりも階段のほうが早いんですよ。

